広島県印刷工業組合会報（毎月1日発行）

いんさつ広島

VOL.389
平成31年1月

新年特別号

発　行／広島県印刷工業組合　　発行人／中本　俊之
広島市西区南観音一丁目1番22号　TEL（082）293-0906　FAX（082）293-0954
URL：http://www.hiroshima-pia.jp　E-mail：h.inkumi@estate.ocn.ne.jp

年頭所感
広島県印刷工業組合　理事長　中本　俊之
全日本印刷工業組合連合会　会　長　臼田　真人

年男（女）新春エッセイ
株式会社ユニバーサルポスト　喜瀬　清
有限会社広島入力情報処理センター　玉野　佳子
株式会社原色美術印刷社　田尾　直也
広島印刷株式会社　満田　博子

臨時常任・第５回拡大理事会開催

DTP作業実技・学科試験の事前研修開催

【全日本印刷文化典高知大会】記念講演　山本　一力　氏

平成30年度永年勤続表彰

第14回 印刷産業関連業界親睦ゴルフ大会開催

福山支部だより

事務局だより　●組合の動き

【速谷神社】（廿日市市上平良）

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

今年も「いんさつ広島」編集員一同、皆さまに身近な情報等をお伝えできるよう頑張りますので、どうかよろしくお願いいたします。

写真は、今年も初詣客でにぎわう速谷神社です。

この神社は、千七百有余年の歴史を持つ延喜式内社で、成務天皇の時代に、安芸国造を賜り総鎮守（安芸の総氏神）として、広く国土を開拓し、産業の道を進め、交通の便を開き、安芸の国の礎をつくり篤い崇敬をあつめております。ご祭神は飽速玉男命（あきはやたまおのみこと）です。平安時代にまとめられた延喜式によれば、当社は名神大社（官幣）に列せられ、延喜式所載の安芸国三社（速谷神社・嚴島神社・多家神社）の中でも格別の待遇を受けたとあります。

また、「車を買ったら速谷さん」、と言われており古くから「山陽道の守護神」として信仰されております。

新年のご挨拶

― 2019年テーマ ―

人が集まり笑顔をつなぐ幸せ産業へ

広島県印刷工業組合
理事長　中本俊之

あけましておめでとうございます。

印刷業界ならびに関連業界の皆さまが健やかに新年をお迎えになられましたことを、心からお慶び申し上げます。

旧年中は組合運営に格別のご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。本年も昨年同様ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、2012年12月から拡大が続いている国内景気は今年1月で戦後最長を更新します。中国地方は昨年7月の西日本豪雨の影響があるものの緩やかな回復と持ち直しの動きも見られます。米国と中国を中心に深刻化する貿易摩擦問題、世界経済の減速、今年秋に予定される消費税率の引き上げなどデフレ脱却の道は険しいですが、新しい元号に改元される今年こそ、印刷業界を中心に大きな経済効果がもたらされると期待したいところです。

昨今ニュースなどで目や耳にしない日はない「働き方改革」について、すでに取り組んでいる企業も多いとは思いますが、進めれば進めるほどにその難しさと本来の目的と意味を考えさせられることが多いと感じています。

そもそも何のための改革なのか。労働時間や休暇、残業代や賃金といった労働者の権利に関して解決すべき課題は多々ありますが、それらはあくまで手段にすぎず、最終的に目指すのは「働く人の幸せ」と「企業の存続・成長」です。まず「働く人の幸せ」とは、働き手が自ら望むワークスタイルを見つけ、働くことに喜びややりがいを見出しつつ自分らしい人生を歩むこと。それが実現できる環境を企業が整備する責任があります。次に「企業の存続・成長」とは、正当な待遇と職場環境をクリアした上で、生産性や採算性を確保できる効率的な仕組みを確立し、企業価値を創出すること。つまり、働き手と雇用する側、双方にとって、一過性ではない「持続的な幸せ」を見据えた改革こそが「幸せな働き方改革」といえるのではないでしょうか。

広島県工組は今年「人が集まり笑顔をつなぐ幸せ産業へ」をテーマに掲げました。お客さまや地域の人々に親しまれ頼りにされて人が集まってくるという意味と、魅力ある産業として夢を持って生き生きと働く人、働きたい人が集うという意味を込めています。私たちに関わる人たちがみんな笑顔になり幸せのバトンをつないでいく。そんなふうに幸せを生み出す存在であり続けることで、この先もわれわれの産業は存続していくことができます。夢のある産業として、人を育てて未来にバトンをつなぎ、地域＝広島を元気に、幸せにするために何ができるか、何をすべきかを、今一度、見つめ直し行動に移す1年にしようではありませんか。

今年も15回目の印刷産業夢メッセを10月に開催する予定です。昨年から広島ガーデンパレスに会場を移しましたが、おかげさまで盛況に終わり今年につなげることができました。より一層、有意義な夢メッセとなるよう精一杯取り組んでまいります。

さらに、来る2022年に全日本印刷文化典全国大会が広島で開催されることが決定しました。皆さまに印刷の可能性を感じていただける素晴らしい機会をお届けできるよう、こちらに向けても準備を進めてまいります。

2019年が皆さまにとって輝かしい年となりますよう祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

全日本印刷工業組合連合会
会　長　臼 田 真 人

明けましておめでとうございます。

旧年中は当連合会に格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年 10 月に開催いたしました「2018 全日本印刷文化典高知大会」には、全国から 540 名を超える方々にお集まりいただき、全印工連の団結と協調、さらには将来の業界発展に向けての課題や方向性を再確認することができましたことは、全国の印刷工業組合の役員、組合員、関連業界の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

さて、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「育児や介護との両立など、働き方のニーズの多様化」への対応に直面している現在、投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境を作ることが、働き方改革の重要な課題になっています。こうした中、この課題解決のため、働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指していくため、先般、働き方改革関連法案と呼ばれる一連の労働法改正が成立しました。

このように労働環境が激変する中、全印工連では、組合員企業の従業員がやりがいを持ち、安心して働き続けられる職場作りによって、新たな付加価値を創出し、顧客満足度を高め、ひいては組合員企業の業績向上につながる Happiness Company を目指していただくことを目的に、「幸せな働き方改革プロジェクトチーム」を立ち上げ、ステップ 1 からステップ 5 のプロセスを構築し、全組合員への発信を続けているところです。新しい働き方改革、そして、幸せな働き方改革、これを実現するためには、いくつかのプロセスが必要となりますが、取組みは経営者の決断となります。緊張が張りつめた会社からコミュニケーションが図れる心理的安全性の高い職場へと変え、新しいイノベーション、新しいビジネスを生み出す企業への転換が急がれます。

本年も引き続き、当連合会のブランドスローガン「Happy Industry　人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」へとつながる、待ったなしの「働き方改革」をさらに推進するとともに、構想から 10 年、事業を立ち上げて 3 年目を迎え軌道に乗りつつある事業承継支援、さらには、大きな進展を見せた知的財産権保護の促進、併せて、中小印刷産業振興議員連盟との連携による官公需の取引改善、資材値上げ問題への対応など、全印工連の大きな組織力を存分に活かした事業活動に全力を挙げて取り組み、全国の組合員企業の皆様のお役に立てるよう一層精進してまいります。

新しい元号となる 2019 年が皆様にとって明るく希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

年男新春エッセイ

「ああ 72 歳、されど 72 歳」

株式会社　ユニバーサルポスト
代表取締役社長　喜瀬　清
（昭和 22 年生）

明けましておめでとうございます。

６回目の干支（亥年）を迎えました。ついこの間、還暦を過ぎたのにもう干支を一周り、時間の進みが物凄く早いです。生まれた時にいただいた私の時間は、あとどのくらい残っているのだろうか？もう１回亥年を迎えることが出来るくらい残っているだろうか？などと思ってしまいます。もし残っているとしたら何をしたいのだろうか？やり残していることは？と考えてみると、意外にこれをやりたいという大きな志は見えてきません。

しかし、少なくとも、皆が手をこまねいているテーマに挑戦してみようという志はあります。それは、まだよくその姿が見えないが確実に起こっている社会の大きな変化にどう対応して行くかの具体的道筋です。ただ、その変化が自分の周りをどういう形で変えてしまうのか具体的に掴めていません。ゆえに私の描く道筋はひょっとすると間違っているかもしれません。しかし、動いてみなければ結果は見えません。ことほど左様に「私のやりたいこと」は大変難しいのであります。今から（我社の）後輩の邪魔をしないように、過去の経験をつなぎ合わせ、仮説を立て進めて行きたいと思っています。ただ、実行するのは、私でなく後輩です。全く無責任な話かもしれませんが、生きている限り一緒に悩みますし、もちろん喜びも一緒に味わいたいと思います。

私たち業界人にとっての大きな変化は、印刷物の需要が減っていることです。紙が持つ媒体としての力がデジタルのそれに及ばないが故に、紙を媒体とする印刷の役割が減ってきていることです。この役割の減少をどういう方法で補うかこれが大きな命題という事は業界人なら承知していることですが、それが難しい。デジタルの強みを印刷の「伝える力」にどう組み入れるかです。強い「印刷の力」の復活には、デジタルとアナログの融合をいかに実現するかだと思います。

昨今、AI（ロボット）が万能のような見方がありますが、私は、AI はヒトの感性を越えられないと思っています。「人が一番」でなければ「人」である我々の存在は一体何の為にあるのか判らなくなります。

印刷で「ヒトの心、人の思い」をどう伝えるか。その手段は Web 等デジタル力を利用した形で行い、常に紙の良さも合わせ考えることを前提に進めることにした方がいいと思います。「ヒトの心、人の思い」は感性そのものです。最近、特に感性を素直に伝える力は、紙の方が勝っている部分が多いと言われる方が増えています。また、色々な実験データが出て来ています。中でもデジタル先進国を標榜する隣国で、いち早くデジタル教科書を取り入れましたが、それだけではだめという事になり、副読本等を紙で作り併用しようという動きが出て来ています。紙の良さの見直しの機運が高まり始めているのかもしれません。

デジタル信奉者の中にも、紙を媒体とした印刷は必ず残ると言われる方が多くいます。「印刷（紙媒体）は残る」このことを信じ、大切にして、残る時間をしっかり生きて行けたらと思う 72 歳です。

年女新春エッセイ

「還暦に向けてマイブーム」

有限会社　広島入力情報処理センター
代表取締役　玉野　佳子
(昭和 34 年生)

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

旧年中大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は年女そして還暦までカウントダウンしていく中で、私自身のマイブームについて、つたない内容ですが寄稿させて頂きます。

近年の天変地異、明日がどうなるか分からない…ということを常々思う日々。また、災害だけでなく健康への不安。ある日突然、病もやってきます。50 歳を超えた時に病気には無縁だった私も罹患しました。それからというもの、生活の為に仕事をしていた 30 年間、子供達も独立し、これからは何の為に仕事をするのか…ということを考えるようになり、ストレスを溜めない、仕事を楽しめるような日々を送りたいと思うようになりました。

私の好きな事は唯一旅行ですが、長期の休みは取れない現状、海外旅行は難しく「自宅で一人で楽しめること探し」を始めました。

最初は、休日に街に出掛けてぶらぶらする程度でしたが、1 昨年に出会った「ハーバリウム作り」(植物標本インテリア) にハマりました。将来は好きな「花」で何かをやりたい!! と思っていたのですが、「決まった日に習いに行かなくてもいいもの」「手入れの要らない長く楽しめる物」「自分のペースで拘わることの出来ること」といった条件にピッタリはまったのがハーバリウムです。ドライフラワー・プリザードフラワーを買ってきては帰宅後、夜な夜なハーバリウムを作り、会社にも沢山飾るようになりました。(写真：会社の靴箱の飾り)

そして来社された人にハーバリウムを包んでプレゼントしていたら、「箱を作ったら良いじゃない？」と従業員に言われ丁度、当社でカッティングプロッターを導入し試作づくりをしていましたので作って貰いました。

ギフト箱の種類が通販でも少なかったこともあり、商品化してハーバリウムと箱セットで販売。趣味と実益が重なり楽しませてもらいました。

また昨年夏からは、ミシンで「布の小物」作りが加わりました。家庭科は苦手でしたが、まさか 60 歳前になり学生時代のミシンが役に立つとは思いませんでした。

最近のハンドメイドブームで趣味の作品を販売する通販サイトを知り、最初は気に入った生地の作品を色々購入しているうちに、自分で作れるのでは？と手芸店通いを始め、可愛い生地を購入してはファブリックハンドメイド。今度は当社で制作販売している「わすれんノート」に「布ノートカバー」を作ってセット販売するようになりました。文鳥好きの従業員がカッティングで小物文具を作りネット販売するうちに、文鳥ファンのフォローも増えたので、従業員の書いたイラストでオリジナル布も作り、「文鳥生地のカバー」も販売しています。可愛いので是非ご覧下さい。

昨年の豪雨災害で 7．8 月と仕事が無かったですよね。暗い気持ちになるところネット販売の作品づくりで当社は盛り上がっておりました。

さて「自分が出来る事」を仕事として 25 歳から印刷業界に入りましたが、手に職・仕事を継続させてもらえたこの印刷業界に感謝しております。

印刷業界、それも入力・制作の現場で約 30 年。組合ではどうしても印刷が主流。プリプレス部門は陰が薄いのですが、価格の差を付けられるのは DTP の部分だと思っています。その DTP を若い方が目指す職種になって欲しいです。印刷組合の一員として何か尽力出来ることがあるなら…という意味でも 3 年前から始まりました国家試験の「DTP 検定」周知・普及にも期待しています。国家試験が取れるという素晴らしい技術職であり若い方には、スキルアップセミナー、従業員同士の垣根を越えた交流など、やり甲斐のある魅力溢れた印刷業界になることを期待しています。

1959 年生まれは九星学では五黄土星。今年の運勢は昨年の厄を抜けて徐々に運気が回復してくる年回りということです。キーワードは準備、奉仕、努力、協調など。強いイメージの王様の星ですが、今年は人の役に立つことが一番の運気アップになるようです。周りの人から感謝されることを積極的に行いましょう〜と。運気アップのためにも、60 歳からはお役に立つこと、生涯現役で自分を必要としてくれるところで花咲きたいと思っていますので、どうぞお気軽にお声掛け下さい（笑)。

年男新春エッセイ

「2019 年を迎えるにあたり」

株式会社　原色美術印刷社
代表取締役社長　田尾　直也
（昭和 46 年生）

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては新年を迎えられお慶びのことと思います。

旧年中は印刷業界並びに関連業界の皆様には大変お世話になりました。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。今年 48 を迎える「年男」として寄稿致します。

印刷業界に入り 24 年、広島に戻り 16 年が経ちました。過ぎてみればアッと言う間ですが思い起こせば「反省」と「感謝」の日々です。

社会人となった初めての会社では（現在、その会社はありません）印刷の「イ」も判らずまた、残念ながらその会社には教育制度などなく 実践あるのみで奮闘し毎日夜遅かったので「**ナイトレンジャー**」と呼ばれておりました（笑）もちろん、いま思い返せば厳しかった先輩、上司のおかけでなんとかやってこれたわけです。当時のお客様や社内工務の方、協力会社の方々には 本当に「感謝」しております。当時の先輩方には一昨年お逢いしまして懐かしい話しをしたものです。

３年半ほどお世話になった頃、転職をし次の会社へ。前社と違い規模も大きくなり「管理・管理・・」と徹底した報連相のもと営業活動に邁進しました。業界経験者としてスムーズに行った点とまともな教育を受けていなかったことでかなり面食らったことを憶えております。

人生で一番怒られたのもこの時期です（笑）大きなミスもやらかして落ち込んだ時期もありました。ミスを起こしてしまう心理的要因をこの時学んだように思います。暫く時間も経ち当時の 同僚や後輩が 東京での「お客様」になったり「協力会社」になったりと繋がりで色んなコトが進められています。

本当にありがたいことです。

広島に戻り、今現在「経営者」となり人との繋がりが本当に重要であると感じております。前述の若き青き自分自身の数々の失敗が反省を、人との繋がりが感謝を教えてくれました。

印刷工業組合の青年会の会長職も経験させて頂きました。この時知り合った各ブロックのメンバーも私の財産となりました。また、現在は全印工連内組織の「産業戦略デザイン室」のメンバーとして活動もさせてもらっております。新たな人とのご縁に「感謝」しております。

今後もこのコトを忘れずに驕るコトなく身の丈とチャレンジを上手く組み合わせて、業界発展のため、社員の幸せのために「成果」を出し続けていけるよう取り組んで参ります。

今年一年が皆様にとって、大変大きく有意義な価値ある年となりますことを祈念しております。

年女新春エッセイ

「15 年間を振り返って」

広島印刷株式会社
制作課リーダー　満田　博子
（昭和 58 年生）

新年あけましておめでとうございます。

オリンピックを前にした本年は、約 200 年ぶりとなる天皇陛下の御退位と新たな御即位があり、新しく制定される年号の元年となる歴史的な一年です。

そんな今年、私はグラフィックデザイナーという仕事に就き 15 年目となります。小学生の頃から歴史が好きだったので大学で史学を専攻したいという思いもありましたが、将来の職業ということで考えた時、何かものづくりの仕事がしたいと思い、選んだ進路は県内の専門学校でした。専攻は 3D コンピュータグラフィックスでしたが、様々な授業があり、その中で一番楽しかったのがグラフィックデザインでした。

はじめはデザイン事務所に就職しました。ロゴ制作や車関係などのチラシ、商品パンフレットや会報誌、Web サイトのデザイン、大きなものではショッピングモールの季節ごとのセールのイメージデザインなど、1 年目にしては幅広くお仕事をさせていただいたように思います。それでも、デザイン事務所特有の残業の日々。定時に帰れるのは予定がある日くらいで、深夜になることも多かったですが、残業代もなく手取りはわずかでした。それはプライベートにも大いに響いていきました。私のイマジネーションは日常の中にあります。様々なものを見て聞いて、感じることで想像力を掻き立てられるのですが、窮屈な日常から何かを生み出すことは難しく、たった 1 年半で私はデザインをしたくないと思うようになり、事務所をやめました。

次に就職したのが現在の広島印刷です。当初の募集職種は“オペレーター”。当時の実際の業務内容はオペレーター業とデザイン業が半々といったところでした。それがその時の私には丁度良かったように思います。定時で帰れる日も多く、休日に時々旅行に行くこともできるようになりました。日常から得るものが多くなるとともに、デザインをしたいという気持ちも増していきます。それと平行して任されるデザインの仕事も増えていきました。広島印刷は印刷会社であるとともに自社でフリーペーパー「オートク」と「ゴルフファン」を発行をしています。一般のチラシやパンフレット、ラベルやパッケージなどもあれば、フリーペーパーの特集やそれに関連するイベントの制作物などもあり、比較的幅広いデザインのお仕事があります。それが私のデザインに対する気持ちの変化にもマッチし、十数年と続けることができた要因の一つであると思います。

「創造性とはいろいろなものをつなぐ力だ」というのは、アップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏の言葉ですが、私にとってデザインとは目に見える“カタチ”だけではなく、より多くの情報を集め、それを構築することでした。それはパズルをする感覚と似ています。その制作物は When（いつ）Where（どこで）Who（誰が）Whom（誰に）What（何を）Why（何故）How（どのように）伝えるためのものなのか。この 6W1H がパズルでいうと一番外側の枠となるピースのようなものです。それらの情報を分析することで紙面のデザインや内容などの方向性を絞ります。グラフィックデザイナーはクライアントの思いを形にする仕事。クライアントがいて、更にその先に伝えたい人々がいます。伝わりやすいことはもちろん、広告であれば反響の出るもの、コンペであれば選ばれるもの。プロであるからにはそういった目的を果たせるデザインを目指したいと思い取り組んできました。

現在はグラフィックデザイナーとして仕事をするとともに、アートディレクションもさせていただいています。今まで自然と頭の中で作業しながら組み立てていたものを言葉にしながら伝えるということは思いの外難しく、頭を悩ませていますが、これは伝える力を更に伸ばすチャンスです。今、働き方は多様化の兆しを見せています。けれど様々な選択肢の中から、自分の求める形を実現することができる人は限られるのではないでしょうか。今現在自分の目の前にあるものにどのように立ち向かうかが、将来自分自身の選択肢を広げる力になるはずです。亥年生まれらしく自分の目指すべき道を力強く進みたいと思っています。

あけましておめでとうございます

平成31年 元旦

アート印刷株式会社 代表取締役社長 細川俊介 福山市南本庄1丁目10－38 〒720-0077 電話(084)924－5588	株式会社 アドプレックス 取締役社長 隅川通治 広島市中区舟入南1丁目1－18 〒730-0847 電話(082)232－4286	株式会社 石井印刷所 代表取締役社長 石井千之 東広島市西条岡町9－17 〒739-0016 電話(082)423－2173
イチカワ印刷株式会社 代表取締役 市川哲也 府中市元町422－2 〒726-0003 電話(0847)45－4358	今谷印刷株式会社 代表取締役社長 蔵田和雄 東広島市西条町寺家6608 〒739-0041 電話(082)422－2714	株式会社 インパルスコーポレーション 代表取締役社長 後藤智治 広島市安佐南区相田1丁目16－27 〒731-0141 電話(082)878－6000
大東印刷株式会社 代表取締役 大東弘典 三原市皆実4丁目5－30 〒723-0052 電話(0848)62－3389	有限会社 加計印刷 取締役社長 大倉啓司 山県郡安芸太田町大字加計3444－1 〒731-3501 電話(0826)22－0568	株式会社 呉精版印刷 代表取締役社長 高山順子 呉市築地町5－4 〒737-0822 電話(0823)22－5011
株式会社 原色美術印刷社 代表取締役社長 田尾直也 広島市西区商工センター7丁目5－48 〒733-0833 電話(082)277－3030	佐々木印刷株式会社 代表取締役 佐々木孝朗 三次市東酒屋町306－55 〒728-0023 電話(0824)62－3539	有限会社 新洋社印刷所 代表取締役 島田星平 広島市西区観音町4－14 〒733-0031 電話(082)232－3348
瀬戸内海印刷株式会社 社長 大田恒三 広島市佐伯区石内北5丁目1－8 〒731-5109 電話(082)554－5500	株式会社 Taisei 代表取締役 吉岡ゆかり 本社 広島市安佐南区祇園3丁目24-17 〒731-0138 電話(082)875－3232 東京営業所 東京都千代田区霞ヶ関1-4-1日土地ビル2F 〒100-0013	中国印刷株式会社 代表取締役社長 岡谷義則 廿日市市大野387番地3 〒739-0422 電話(0829)50－2838
有限会社 トータルワーク 代表取締役 大道綾彦 広島市西区中広町2丁目24－5 サンコーポ中広205 〒733-0012 電話(082)234－2133	中川印刷株式会社 会長 中川仁 代表取締役社長 中川隆 広島市西区横川町2丁目8－5 〒733-0011 電話(082)291－3841	株式会社 中本本店 代表取締役 中本俊之 広島市中区東白島町13－15 〒730-0004 電話(082)221－9181
株式会社 ニシキプリント 代表取締役 宮﨑真 広島市西区商工センター7丁目5－33 〒733-0833 電話(082)277－6954	株式会社 沼田総合印刷 代表取締役 丸林智行 広島市安佐南区沼田町阿戸657－1 〒731-3271 電話(082)839－2500	有限会社 花田印刷所 代表取締役 花田一弘 広島市中区光南6丁目2－6 〒730-0825 電話(082)243－2062
広島中央印刷株式会社 代表取締役社長 田村治重 広島市中区国泰寺町1丁目5－18 〒730-0042 電話(082)241－9291	有限会社 広島入力情報処理センター 代表取締役 玉野佳子 広島市東区矢賀新町1丁目6－14 〒732-0044 電話(082)510－1511	株式会社 広瀬印刷 代表取締役 瀬尾淳 広島市西区中広町 3－3－12 〒733-0012 電話(082)232－2238

あけましておめでとうございます

平成31年 元旦

二葉印刷有限会社 代表取締役社長 浅田英史 本社 福山市霞町3丁目4－26 〒720-0812 電話(084)922－4785 工場 福山市山子町5丁目29－19 〒720-0092 電話(084)951－2124	株式会社 文化社 代表取締役 重本正哉 広島市西区商工センター7丁目5－56 〒733-0833 電話(082)277－2661	平和印刷株式会社 代表取締役社長 河上誠司 庄原市板橋町324－7 〒727-0014 電話(0824)72－1145
松本印刷株式会社 代表取締役 松本仁志 廿日市市下の浜 5－12 〒739-0433 電話(0829)55－2290	明生印刷有限会社 代表取締役 青木博 広島市中区舟入川口町18－19 〒730-0845 電話(082)231－9778	モンデン化成株式会社 代表取締役 田頭正芳 福山市神辺町道上2891－1 〒720-2104 電話(084)960－0345
株式会社ユニックス 代表取締役社長 宇都宮公徳	株式会社 ユニバーサルポスト 代表取締役社長 喜瀬清 広島市西区商工センター7丁目5－52 〒733-0833 電話(082)277－5588	金正印刷株式会社 代表取締役 薬師寺尚志 広島市南区段原南1丁目27－7 〒732-0814 電話(082)253－3301
株式会社 三丸シール印刷 代表取締役 須嵜竜二 広島市中区舟入川口町2－35 〒730-0845 電話(082)232－5469	三和綜合印刷株式会社 代表取締役 近江弘至 福山市曙町6丁目1－11 〒721-0952 電話(084)953－1969	重田印刷株式会社 代表取締役 重田耕作 府中市本山町530－229 〒726-0001 電話(0847)41－2226
至誠堂印刷株式会社 代表取締役 國光俊博 広島市中区猫屋町 8－26 〒730-0852 電話(082)232－6111	セイコービジネス株式会社 代表取締役社長 宇都宮公徳 呉市郷原町4010－11 桑畑工業団地 〒737-0161 電話(0823)77－1122	有限会社 泰平紙業 代表取締役 角野壽男 広島市西区商工センター7丁目5－29 〒733-0833 電話(082)277－4301
東光印刷株式会社 代表取締役社長 小倉裕巳 広島市西区商工センター7丁目5－15 〒733-0833 電話(082)501－0780	株式会社 ハイマン インターナショナル 代表取締役 ハイマンブライアン 福山市南本庄2丁目4－27－102 〒720-0077 電話(084)928－3544	広島印刷株式会社 代表取締役 小下恵壮 広島市西区商工センター7丁目5－4 〒733-0833 電話(082)277－6050
株式会社 ひろみ 代表取締役社長 増原智子 広島市安佐南区長束5丁目5－10 〒731-0135 電話(082)237－1687	福山エビス印刷株式会社 代表取締役 小田芳正 福山市東川口町1丁目5－5 〒720-0821 電話(084)954－2200	株式会社 ポップジャパン 代表取締役社長 熊本卓司 広島市安佐南区伴南 2－5－19－26 〒731-3168 電話(082)811－8500
株式会社 有文社 代表取締役社長 中野博文 相談役 平地睦則 広島市中区光南3丁目5－6 〒730-0825 電話(082)246－1191	レタープレス株式会社 代表取締役 増田達朗 広島市安佐北区上深川町809番地の5 〒739-1752 電話(082)844－7500	謹賀新年 本年もよろしくお願いいたします 平成31年 元旦 広島県印刷工業組合 事務局

「臨時常任理事会」「第5回拡大理事会」開催

～今年も役員会･夢メッセ等1年間お疲れ様でした～

12 月 8 日 (金) 午後 5 時から梅もと別館に於いて、今年最後の臨時常任理事会を、5 時 30 分より拡大理事会を理事長、副理事長、常任理事他役員 23 名の出席で開催され、午後 6 時からは忘年会を開催した。

会議開催の冒頭に中本理事長から「今年 1 年間、大変お世話になりました。また、会場を変更しての第 14 回の印刷産業夢メッセも盛会に終えることが出来ました。来年もより良い夢メッセになるよう、皆さんにいろいろとご相談をしたいと思っております。」と挨拶があり議題に入った。

議題

1. 全日本印刷文化典・全国大会 2022 年の開催要請及び通常総会の開催会場等について

中国地区では第 1 回以降、岡山、山口で開催されており次回は広島県で受けることとする。出席役員全員賛成

組合の運営費の見直しの一つとして、通常総会の会場を広島印刷会館 2 階の会議室に変更、したがって、今まで行っていた「関連業界との懇親会」も廃止とする。出席役員全員賛成

2. 2019 年 (平成 31 年) スローガンについて (詳細下記)
3. 組合員の異動等について
4. 「平成 31 年新年互礼会」の申込みについて
5. その他

【2019 年 (平成 31 年) スローガン】

人が集まり笑顔をつなぐ幸せ産業へ

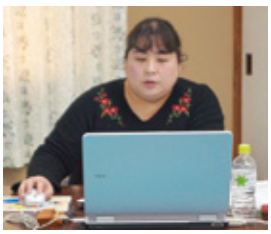
「人が集まる」というのは、お客さまや地域の人々に親しまれ頼りにされるという意味と、魅力ある産業として夢を持って生き生きと働く人、働きたい人が集うという意味を込めています。

そうやって私たちに関わる人たちがみんな笑顔になり幸せのバトンをつないでいく、だからこそこの先も存続していくことができる、そんな幸せを生み出す姿を目指そうというメッセージです。

これまでも大切にしてきた「人を育てる」「未来にバトンをつなぐ」といった思いと「地域＝広島を元気に幸せにする」というニュアンスも含めつつ、この 2 年間続けてきた「つながり」も継承します。

平成30年度　技能検定プリプレス職種(DTP作業)の実技･学科試験の事前研修開催

上記研修を、平成 30 年 12 月 10 日 (月) 広島印刷会館 2 階会議室に於いて、初めての実技研修を 10 時から 12 時まで渡部由加さん (㈱ニシキプリント) に講師をお願いし 14 名の参加で開催した。午後 1 時 30 分からは例年どおり学科研修を相馬謙一講師 (全印工連特別顧問) が 16 名の受講生に研修を行った。



ROBOCUT SYSTEM
コンピューターカッターを中心とする
給排紙省力化システム
イトーテック株式会社
大阪支店
〒577-0022 東大阪市荒本新町3-29
TEL〈06〉6618-5335　FAX〈06〉6618-5337

KODAK SONORA CX
プロセスフリー プレート
全都道府県450社の導入実績!
秘められた可能性が、ついに拓かれる。
コダックのサーマル テクノロジーの粋を結集したUV対応完全無処理CTPプレート KODAK SONORAが、さらなる進化を遂げ、新時代の扉を拓く!!
高耐刷性　高耐傷性
メンテナンスフリー　省スペース
素早い刷り出し　優れた視認性
コスト削減　環境対応
完全無処理CTPプレートの進化が、未来を輝かせる。
コダック ジャパン
関西事業所
〒564-0063
大阪府吹田市江坂町
2-1-43 KYUHO江坂ビル
TEL.050-3819-1266
http://www.kodak.co.jp

10 月 5 日（金）に開催された全日本印刷文化典高知大会の記念講演をご紹介いたします。

“刷ればこそ”

作家　山本 一力　氏

昭和 23 年高知市生まれ、旅行代理店等様々な職業を経て、平成９年「蒼龍」でオール読物新人賞を受賞、その後直木賞などいろいろと受賞。近年は、土佐を題材とした作品に力を入れている。

昨日は、台風の行き先がどうなるかわからない天気でしたが、雨は必要で人の暮らしに欠かせない大事な水です。しかし、時を得ないと、どうしても邪魔になってしまう。これは、人生において何事も同じことです。もの凄く大事なものでありながらも、場所を間違えたり、時期が違ったりすると、折角の効能が無になってしまう。無になるどころか邪魔になる。このことを私は自分で社会人になった後、実感したのは旅行会社に入社した年でした 1966 年、今から 50 年以上昔のことになります。

あの頃は、印刷物というのは大体手書きで、どうしても外に向かって出さなければいけない文書に関しては、和文のタイプライターで打ったもの。それが、文書のできていく道筋でした。ですから、印刷されたものに対しては、もう計りようのない信頼感といいましょうか、それが印刷されているというだけで人は信用したものです。逆に手書きというのは、「なんだ、手書きかこれは」というくらい印刷物と手書きのものの間には、こんな格差がありました。

旅行会社入社２年目、先輩が一生懸命書いてくれたお客様への挨拶状をわざわざ頼まれた訳でもなく、大事な物だと思い込んで、小１時間かけタイプ打ちをしてもらい、仕上がったそのタイプのものと、先輩が書いてくれた手書きの原稿と、その両方を先輩に見せる前に所長に見せた時、新入の末席にいた私は強い口調で叱られました。「余計なことをするんじゃない。タイプ全盛などと思うんじゃない。この文章は、その先輩が、気持ちを込めてお客様にお伝えしようとして書いたものだ。活字になったからといって、先輩の思いが、手書きのままのものが活字で伝わるというのは大きな思い違いだ。時と場所を選んで、印刷にするか手書きのままにするかという判断が、これからの時代はもの凄く大事になるぞ」。叱られた最後の言葉、「これから大事になるぞ」と言われたことが、まだ 18 歳の私には意味がよくわからず、逆にやはり印刷物の方が値打ちがありそうな貴いものであるという感じが自分の中に強くあったものですから、所長から叱責を受けた言葉の半分ぐらいは素通りしていたかに思います。あの時、1966 年に所長が言われたこと。手書きのものと印刷されたものの値打ちを上手に使い分ける時代が来る。今の時代を見事に言い当てておられたと思います。

旅行会社に入って３年目、本社に異動になりその後７年間、広告宣伝と企画旅行のプランニングというセクションに配置されました。私は、コピーライターを志望し、養成講座のようなところを受講していたものですから、会社で旅行パンフレットを作るその仕事を主に従事することになりました。印刷というものがもの凄く自分の身近なところにきたのは、あの 21 歳の時からです。

それから後、今日に至るまで印刷と活字というのは、もう私と同じ道を今でも歩んでおります。今日こちらへ伺う直前まで宿で原稿を書いていました。今日が締め切りという原稿が１本あるものですから、それをひたすら書いていた。書きながら思ったのです。

実は数日前、長谷川伸さん、明治生まれで大正昭和の時代で活躍された作家です。例えて言えば、『一本刀土俵入』『瞼の母』、こういう演劇にもなっている原作を多数お書きになった方です。大作家でありながら、後に続く作家を育ててこられたことで、今も多くの人

IWATSU
岩崎通信機株式会社
（旧会社名：メディアコンフォート株式会社）
九州支店 印刷営業担当　〒812-0023　福岡市博多区博多駅東 2-9-25
（アバンダント８４ビル）
ＴＥＬ.092-481-4114　ＦＡＸ.092-481-4225
本社　第一営業部　〒168-8501　東京都杉並区久我山 1-7-41
ＴＥＬ.03-5370-5476　ＦＡＸ.03-5370-5494
www.iwatsu.co.jp

The World Loves Books.

多品種少量生産に最適な製本システムをご提案します。
Horizon
www.horizon.co.jp
株式会社ホリゾン西コンサル

から尊敬を受けています。門下生が、最盛期には 30 人いたと言われ、その中から 12 人もの直木賞作家を輩出されました。

長谷川先生がお書きになった原稿はもちろん手書きです。自分が書いた原稿の第１回の赤字は著者本人が手を入れていたという時代です。長谷川先生の、人によっては癖のある字だとおっしゃる。でも、いかにもああいう人情時代小説、また片方ではもの凄くハードな仇討のことをお書きになり、大変重量のある原稿をお書きになる先生ならではの文字が、原稿用紙に今も残っている。そこに記された赤字というのは、これはもう大事な歴史の証ですね。それが文選工の手を入れて活字組みをされる。当時、長谷川先生が原稿を書いておられた時は、圧倒的に活字の組版でした。写植というのはその後に出てきます。ですから文選工の方々が組版をされたそのゲラ刷りが、今も紙に残っています。

松本清張さんが、作家としてデビューされる前は、九州で新聞社の記者をしておられたり、また現場で文選工も経験しておられた。ですから、清張さんの書かれる文字というのは誠に見やすい。清書したのではないかと思われるような原稿が、今も生原稿として多数残っています。小倉にある松本清張記念館にお邪魔した時、生原稿を拝見しました。本当に素晴らしい。あの原稿用紙升目いっぱいに字をお書きになっている。しかも崩した文字ではない。そのまんま楷書として読めるような字が書かれています。

清張さんが、後に文藝春秋のサロンを訪れて、心から尊敬されていた菊池寛胸像の前で深々とお辞儀をされた後、そこで編集者たちと話になった。話が生原稿に及んだのです。「なぜあんなに丁寧に書くのですか。作家さんの多くはもう少し崩されて原稿を速く書いておいでです。なぜ、そこまで綺麗な文字を書くことにこだわっておいでですか」。編集者がこれを問いかけたところ、清張さんは、その編集者を強い目で叱るようにして睨みつけた。「君は、活字を組んでいる現場に１度でも行ったことがあるのか」。言われた当人は全く知らずに、出版社にゲラを出してくる印刷会社のそのゲラだけを見ていた。「存じません」。その時にはまだ、やはり活字の組版だったのです。「不勉強も甚だしい。そんな感覚で人の小説を読んで、作者が意図している心が汲取れるのか。君は文字の上っ面だけしか読んでない。ゲラをちゃんと見てみろ。あのゲラは、活字で押されて凹凸がある。この凹凸がなぜできるか、君は知っているの」。問われた編集者は一言の返答もできずにうなだれるしかなかったのです。

「このゲラが出るには、まず印刷会社の文選工が活字を組んでいく。28 文字詰めの１ページが 30 行であれば、その判型に合わせて活字を組んでいく。１文字ずつ拾うのだぞ。文選工の活字を拾う部屋というのは、どういう部屋だか君はわかっているか。それほど照明に恵まれてない薄暗い所で、彼らは山積みになった活字の箱から文字を１文字ずつ拾い組版をして、ここにある１ページを組むのに、文字が 1,000 文字あれば句読点まで含めて 1,100 文字の活字を拾っている。彼らの仕事を少しでも楽にしてあげようと考えれば、暗い部屋でも読みやすい字で書くのは作者の務めだ。スピードだけを求めて、崩した字で速く書けなどということを２度と言うのではない」。清張さんに、この叱責をされた編集者は、後に文藝春秋の社長にまで上り詰めたと言われています。

その過程において、常に清張さんに言われたその言葉。自分たちは、できあがった本を本でしか見てなかった。しかし、本になっていく手前は、活字が１文字ずつ組まれていた。活字を押しつけて出てくるゲラは、その活字の重さでその部分が凹んでいる。一枚の紙が凸凹している所に作者の思いが込められており、印刷をしてくれたその会社の文選工の思いがあり、ゲラを刷ってくれた印刷工の思いがある。これが、次に本当の印刷に回る時には、紙型に取って、その紙型で今度は輪転機を回していく。いろんなプロセスがある。

「物ができていくということ。いやしくも、本の出版に携わる人間であれば、原稿が活字で組まれて今に至るようになるまでを、全て理解しておきなさい。ただただ、仕上がった形だけを求めて、それの良い悪いのを言うのではない。極力あとで赤字を入れられないように、最初の原稿の時点で、ゲラではなしに、生原稿

竹末洋紙株式会社
良い紙に夢を加えて
洋紙一般・ファンシーペーパー・板紙・封筒
アテナ製紙・イムラ封筒代理店
本　　社　〒733-0833 広島市西区商工センター６丁目5-9　TEL（082）277-4433・FAX（082）278-2070
e-mail:takesue4433@urban.jp
千代田倉庫　〒731-1531 広島県山県郡北広島町川井字岡田　TEL・FAX（0826）72－6626

の時点で作者は赤字を入れる義務がある。その原稿で組版ができた後は、少々の赤字であれば文字の入れ替えぐらいで済む。ゲラで直せば良いという考えで原稿を書いたら、全部を組み替えていくことになる。このことを肝に銘じろと清張さんは言われたのだそうです。

今週の火曜日に伺った長谷川先生のお宅は、東京都港区白金台にあります。庭のある大きい家、そこに、それぞれが 10 畳間ぐらいの部屋が二間続き、上の方の 10 畳間には、長谷川先生をはじめ、門下生の中の兄弟子だった、例えば村上元三さん、それら以外の他の主だった人たちがそこに座る。平岩弓枝先生は、門下生の中のずっと末席に近い所にいた門下生でした。長谷川先生は、昭和 38 年に逝去されています。その時には、一番年若い門下生だったと平岩先生ご自身から伺いました。ですから、別間の 10 畳間にいる兄弟子たちが、いろいろ討議をしていることをずっと聞いている。

そこの原稿というのは、当然ながら手書きの原稿です。毎回、1 作出された原稿をみんなが回し読みをする。コピーなどというものも簡単にはできない時代ですから、書いてきた原稿をみんなが回し読みをして、それを評価していく。その声に出して音読される小説を、下の間にいる若手の物書きを目指す人たちは耳を澄まして聞いていた。これが長谷川宅で行われていた評議の有様です。長谷川先生の原稿、門下生が言うには、やはり癖のある字もあったといいます。しかし、わかりやすい。原稿にはご本人の手でもの凄い書き込みがしてあった。年から言えば、長谷川先生の方が清張さんよりも年上です。そういう伝統の流れというのは、物書きの中でもありました。

私が旅行会社で旅行のパンフレットを作っていた、昭和 44 年から後、この頃は、すでに写植が主流を占めていました。ただ、旅行会社が作るパンフレット程度の写植は、電算写植ではなしに、全てあのこうして手を打って作っていく写植機から打ち出された、それが原稿でした。ですから、もし間に赤字が入ったら、写植のそこの部分を切り張りするか、もう 1 回全部打つか。しかし、ネタが残っているわけではありませんから、もう一度となるとまた一からやり直すことになる。

長谷川先生とか、清張さんの言われた言葉が、旅行会社の所長に伝わっていたとはとても思えません。所長が私に教えてくれたこと、戒めてくれたことは、全く同じことを言われました。「手書きの原稿の段階だったら、何十回でも手を入れろ。赤字が増えて見にくくなったらもう 1 回書け。でも、お前がそれを印刷会社に渡した後は、それは写植の原稿に回る。一度写植に行ったら、あのオペレーターさんたちが 1 文字ずつまたこれを文字拾いをして 1 枚の原稿、版下を作る。版下までいった原稿を簡単に手直しするなどとは考えるな。原稿を書く時点で、いくらでも考え直すということはお前の役目だ。それをお前が自分の責任でやれ。版下へ回る作業になった、そこから先は、印刷会社の人が責任を持って指定通りの原稿を進めていく。でも、その指定の原稿がいい加減だったりしたら、それがゲラに回り色校になった時には、ゼロからもう 1 回やり直さざるを得なくなったりする。そのことをよく考えろ」。まだ 20 歳を超えて 1 、 2 年だった小僧が、そのことを何度も何度も言われたんです。そうなった時、初めて入社 2 年目の時に所長に言われた、手書きのものと活字になったものの値打ちの違い、その差というのがこれから問われる時代が必ず来ると言われた、そのことを強く思い出して噛みしめたものです。

印刷の大事さというのは、私は身に染みて、自分で一番痛感しています。もし印刷ということがなければ、文化が育っていかない。これはもう、私の確信でもあります。デジタルが全盛であるこの時代では、簡単にインターネットを通じて、いろんな情報が飛びかいます。一瞬にして情報が発信されていきます。それまで、インターネットが始まる以前は受信者であった、読み手であった者が、今や書き手であり発信者でもある。誰もが簡単にできていきます。簡単になってくると、印刷ということに対しての尊敬が極めて薄いものになっています。これはもう本当に悲しいことです。プリンターをパソコンなり携帯電話なりに繋げば、あっという間に文字が出力されてきます。そこにどういう工程を経てこの文字が印字されているのか、そんなことを誰も考えません。ただボタンをポンと押したら印刷される、この程度の認識です。私が一番強い怒りを覚えるのは、出版だとか、新聞だとか、印刷だとか、こういうことに携わる人間が印刷ということに極めて無頓着である、この現状です。このことに、強い怒りと危機感を感じて毎日を過ごしている。　≪中略≫

縷々、お話させていただきましたが、私も直接の印刷という現場にはおりませんが、自分で印刷の元になるものを日々書くことを生業としています。皆さんの責任あるお仕事ぶりがあればこそ、今日書いた原稿が本となって世の中に出て行きます。この文化は不変です。どれほど他のメディアが発達しようとも、印刷というこの根源の文明は不滅です。そのことに誇りをお持ちの皆さんの前で、こうしてお話をさせていただけた私は大変に果報者です。これからも一生懸命原稿を書きます。今日ホテルへ帰っても続きの原稿を書きます。書いていれば本になります。本になったらぜひ買ってください。ありがとうございました。

平成 30 年度 永年勤続表彰
受賞者の皆さまおめでとうございます

平成 30 年度の永年勤続表彰が 11 月 23 日付けで実施され、勤続 30・20 年の被表彰者には臼田真人全印工連会長・中本俊之県工組理事長連名、勤続 10 年被表彰者には中本俊之県工組理事長名で表彰された。

今後も引き続き健康に気を付けて頑張ってください。受賞者は次のとおり

勤続 30 年表彰　8 名

◆新谷 隆典　〈青葉印刷㈱〉
◆垣崎 準三・宮岡 建治　〈㈱中本本店〉
◆尾崎 孝次・木村 修三・立畠 茂男・藤井 良一・椋田　豊　以上５名　〈セイコービジネス㈱〉

勤続 20 年表彰　6 名

◆久知良 朋美　〈㈱インパルスコーポレーション〉
◆沖井 美恵子・新宅 節子　〈㈱新生〉
◆谷川 和志・中岡 豊　〈㈱中本本店〉
◆竹田 知佳子　〈㈱有文社〉

勤続 10 年表彰 15 名

◆江種 孝幸・河村 知宏・神田 明子　以上３名　〈㈱インパルスコーポレーション〉
◆平尾 美帆子　〈可部印刷㈱〉
◆細川 哲朗　〈サンヨーメディア印刷㈱〉
◆近藤 東峰・酒松 友昭・為数 周吾・橋本 和幸・三浦 大輔　以上５名　〈㈱中本本店〉
◆高波 明子　〈㈲広島入力情報処理センター〉
◆平松 久仁子・米田 圭一郎　〈ひまわり印刷㈱〉
◆奥井 久美　〈平和印刷㈱〉
◆山崎 美登里　〈㈱有文社〉

第14回印刷産業関連業界親睦ゴルフ大会開催

11 月 13 日（木）、広島安佐ゴルフクラブで印刷産業関連業界親睦ゴルフ大会に 31 名が参加、当日は秋晴れの好天に恵まれゴルフ日和、あとは腕前（成績）だけですが、皆さん怪我もなく楽しくプレーされた。

午前８時 45 分、宇都宮運営委員の司会で開会式が始まり、中本大会会長の「2018 印刷産業夢メッセは、会場は変わりましたが、皆さまのご協力により盛況で終えることができました。今日はゴルフでグリーン上での親交を深め、お互い楽しいゴルフをしましょう」との挨拶の後、OUT・IN ９時 00 分に同時スタートした。

コースは、フェアウェイで今年の干支の猪が夜の大運動会を開催したのか、あちらこちらで土が掘り返してあって大変だった。しかし、皆さん笑顔でプレーされていた。

大会終了後の表彰式では、司会が下位からの成績発表を行い、たくさんの賞品を前に、誰が呼ばれるか、自分の番は、で発表の都度大変盛り上がり和気あいあいのうちに閉会した。

成績は以下のとおり。（敬称略）

			ネット
優　勝	高丸　和志	㈱トモエ	70. 6
準優勝	山口　正之	㈱ユニックス	72. 2
3　位	浦山　信一	合同印刷機材㈱	72. 4
ベスグロ	高丸　和志	㈱トモエ	73

お知らせ

老若男女、誰でも、下手と思われる方でも参加できます。
このゴルフ大会は、印刷産業関連業界にたずさわる、どなたでも参加できます。
次回はあなたも参加してグリーン上での交流を深められたらいかがでしょうか。
大勢の参加をお待ちしております。

福山支部だより

価値組・第28回バリューズカップ ゴルフコンペ

昨年 11 月 25 日（日）福山支部価値組委員会の親睦ゴルフコンペ、第 28 回バリューズカップをＪＦＥ瀬戸内海ゴルフ倶楽部にて開催しました。今回は 6 組 23 名の方が参加くださり、広島からも中本理事長はじめ大勢の方にご参加をいただき、皆さんと楽しく盛大なゴルフコンペになりました。

当日はなんとも素晴らしく晴れた晩秋とは思えないような絶好のコンディション。皆さん軒並み好スコア！そして何より皆さん、和気藹々（わきあいあい）楽しいゴルフになりました。武勇伝も皆さんそれぞれ、いろいろあることと思います。

次回は来春開催。４月、平成の最後を飾るコンペになる予定です。またお声掛けをしますので、よかったら皆さんもご参加くださいね。よろしくお願いいたします。

（占部）

事務局だより

◎組合のうごき

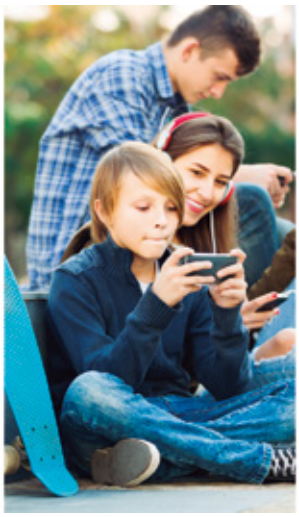
12月	3日	産業戦略デザイン室会議	東　京
	6日	第5回拡大理事会、役員忘年会	梅もと別館
	10日	DTP検定の事前研修	印刷会館
	20日	夢メッセ集約会議、支部長会議	印刷会館
1月	7日	県工組新年互礼会	リーガロイヤルホテル広島
	10日	備後印刷産業新年互礼会	ニューキャッスルH
	11日	呉支部新年互礼会	呉阪急ホテル
	18日	備北支部新年互礼会	三次市
	19日	製本工業組合新年互礼会	センチュリー21

◎組合員の異動

【加　入】

商　　号　赤坂印刷㈱広島営業所（中支部）

加入年月　平成 30 年 12 月



生活文化創造企業

私たち東洋インキグループがつくるさまざまな製品は人々の暮らしの中にあふれています。
私たち東洋インキグループは世界の人々の暮らしの豊かさと文化に貢献します。

TOYOINKGROUP　東洋インキ中四国株式会社

〒730-0015 広島市中区橋本町10-6 広島NSビル 11階 Tel: 082-511-3411 Fax: 082-511-1601　www.toyoinkgroup.com

FUJIFILM
Value from Innovation

勇往邁進

お客さまと共に、
新たな時代へ。

平成に代わる、新しい時代の幕開け。
FFGSも、ソリューションを新たな次元へと進化させながら、
皆さまとともに印刷のイノベーションに取り組み、
業界の発展に貢献してまいります。

Value from Innovation

2019 謹賀新年

富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社
中国支店　〒730-0045　広島市中区鶴見町4番22号 MKD1ビル　082(249)7155　ホームページ　http://ffgs.fujifilm.co.jp

SCREEN

謹賀新年

Digital Everywhere!

デジタル印刷で世界が変わる。SCREENが変える。
SCREENは、本年も印刷業界の発展を全力で支援してまいります。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン
ホームページ　www.mtjn.co.jp/group/
中国営業所／082(264)6451　〒732-0824 広島県広島市南区的場町一丁目2-21 広島第一生命OSビル
本社／03(5621)8266(代)　〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマタネ深川1号館